

## IV 財務諸表に対する注記

### 1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし

### 2. 重要な会計方針

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券……償却原価法(定額法)をもって貸借対照表価額としている。

#### (2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 3. 会計方針の変更

該当なし

### 4. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	6,150,874	54,150,874	6,150,874	54,150,874
投資有価証券	321,009,652	12,881	48,472,571	272,549,962
小 計	327,160,526	54,163,755	54,623,445	326,700,836
特定資産				
小 計	0	0	0	0
合 計	327,160,526	54,163,755	54,623,445	326,700,836

### 5. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対する額)
基本財産				
定期預金	54,150,874	( 54,150,874 )	( 0 )	( - )
投資有価証券	272,549,962	( 272,549,962 )	( 0 )	( - )
小 計	326,700,836	( 326,700,836 )	( 0 )	( - )
特定資産				
小 計	0	( 0 )	( 0 )	( - )
合 計	326,700,836	( 326,700,836 )	( 0 )	( - )

### 6. 満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	帳簿価額	時 価	評価損益
野村証券			
第310回利付国債(10年)	20,344,627	20,459,869	115,242
大和証券			
国際協力機構(10年)	100,000,000	101,900,000	1,900,000
みずほフィナンシャルグループ劣後3回	102,205,335	100,180,000	△ 2,025,335
第137回名古屋高速道路債券	50,000,000	49,834,000	△ 166,000
合 計	272,549,962	272,373,869	△ 176,093

### 7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
受取寄付金	52,000,000
合 計	52,000,000

### 8. その他

#### 金融商品の状況に関する注記

##### 1. 金融商品に対する取組方針

当法人は、公益目的事業の財源の相当部分を運用益によって賄うため、債券、株式、投資信託により資産運用する。なお、デリバティブ取引は行わない方針である。

##### 2. 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は、債券、株式、投資信託であり、発行体の信用リスク、市場価格の変動リスクにさらされている。

##### 3. 金融商品のリスクに係る管理体制

###### ① 資産運用規程に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の資産運用規程に基づき行う。

###### ② 信用リスクの管理

債券については、発行体の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

###### ③ 市場リスクの管理

株式については、時価を定期的に把握し、理事会に報告する。

投資信託については、関連する市場の動向を把握し、運用状況を理事会に報告する。